

項目	内容
開講年度	2024
講義コード	027014
科目ナンバー	2023年度カリキュラム：[23]-[LIB]-[APU]-1 2017年度カリキュラム：[17]-[LIB]-[APU]-1
開講セメスター	春セメスター
講義名・クラス名	異文化フィールドワークⅠ（共通教養科目）
プログラム名	FIRST
担当教員	立山 博邦（JAクラス）、JUNG Jonghee（JBクラス）
実習地	韓国
単位数	2
備考	
講義分野（講義内容に関するキーワード）	異文化理解、異文化間コミュニケーション、チームワーク、問題解決、学習理論
履修の目安	<p>第1または第2セメスターの国内学生（言語基準は問わない）を主な対象としている。第1または第2セメスターの国際学生も履修可能ではあるが、授業は日本語でおこなわれるため、日本語基準の者または「日本語中上級」修了者に限る。</p> <p>履修を期待する学生像： - 授業内外で異文化の学生ともっと交流したいけれども勇気が出ないという人 - 今後交換留学やその他の海外学修プログラムに参加したいけれども自信がないという人</p> <p>履修を期待しない学生像： - 履修をして単位を稼ごうと考えている人 - 海外実習を観光旅行気分で楽しもうと思っている人 - グループ学習で仲間と協力せずに利益だけを得ようとする人（「ただ乗り」をする人）</p>
授業概要	1回生を対象とした短期海外実習プログラム（4泊5日）であり、APUが提供する多文化な環境や海外・キャンパス外学修の機会を積極的に活用して学び成長することができるようになるための「FIRST」ステップとして位置づけられている。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 異文化接触状況において自分なりの対応方法を考え、実行することができる 2) 自分で自分の学習を調整して進めていくこと（自己調整学習）の必要性や具体的な方法を理解し、実践することができる 3) 仲間と協力して学習すること（協同学習）の必要性や具体的な方法を理解し、実践することができる 4) 自分で問題を設定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、一定の解答を導き出すことができる 5) 海外・キャンパス外学修プログラムにおける危機管理の必要性や具体的な方法を理解し、実践することができる 6) APUが提供する多文化な環境や海外・キャンパス外学修の機会を積極的に活用して学び成長したいという意欲が高まる
授業方法	少人数グループ（6名）での主体的な学習活動が中心となる。事前授業では主に派遣先国の言語学習および現地調査の準備をおこなう。海外実習では、くじ引きで決められる目的地（地方都市）に公共交通機関を駆使して自力で辿り着き（「異文化オリエンテーリング」と呼ぶ）、そこで現地の人々の協力を得ながら調査活動（アンケート、インタビュー、観察など）をおこなう。事後授業では海外実習の振り返りおよび調査結果のプレゼンテーションをおこなう。各グループには派遣先国出身または派遣先国の言語・文化に精通したTAが配置され、受講生の主体的・協同的な学びを支援・促進する。なお、海外実習における目的地への移動および現地調査の最中、TAは原則として危機管理面での支援・補助しかおこなわない。

毎回の授業の概要	事前授業1・2：オリエンテーション、グループ分け、TA紹介、アイスブレイク、グランドルールの作成、調査テーマの検討
	事前授業3・4：学習計画の作成、派遣先国の言語学習、調査テーマの検討
	事前授業5・6：派遣先国の言語学習、調査計画の作成
	事前授業7・8：派遣先国の言語学習、調査計画の作成、危機管理ガイダンス
	海外実習：目的地への移動、現地調査、振り返りディスカッションなど
	事後授業1・2：海外実習の振り返り
	事後授業3・4：調査結果のプレゼンテーション
実習スケジュール	募集要項を参照のこと
授業外学習（予習・復習など）の内容と分量	授業時間外にグループで集まって現地調査の準備やプレゼンテーションの準備をすることが求められる。
成績評価方法	<p>P/F（合格・不合格）で評価する。以下の要件をすべて満たさない限りF（不合格）とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 海外実習への参加 - すべての事前・事後授業への出席および<u>積極的</u>参加 - すべての個人課題・グループ課題の提出 <p>なお、無断で欠席・遅刻をした者には単位を付与しない場合がある。</p>
多文化協働学修の実践方法	事前・事後授業においては、派遣先国出身または派遣先国の言語・文化に精通したTAに質問したり教えてもらうことができる。海外実習においては、現地の人々とコミュニケーションをとったり、異文化について自分が観察したことを他の受講生とディスカッションをすることができる。
授業担当教員の実務経験	
学生への要望事項	海外実習では特に積極性が求められる。自分の成長を信じて、積極的に考え行動しよう。
テキスト 備考	
テキスト *最大3冊まで (授業を履修する上で、	
参考文献備考	
参考文献 *最大15冊まで (図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置	<p>石坂浩一・福島みのり（編著）（2024）『現代韓国を知るための61章』（第3版）明石書店.</p> <p>鈴木克明・美馬のゆり（編著）（2018）『学習設計マニュアル：「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房.</p> <p>舘野哲（編著）（2012）『韓国の暮らしと文化を知るための70章』明石書店.</p>
参考文献 (雑誌、年鑑白書等)	
備考	
担当教員研究室電話番号	
担当教員E-mailアドレス	<p>立山 博邦：hirokuni@apu.ac.jp</p> <p>JUNG Jonghee：jungjh@apu.ac.jp</p>
E-Book および 関連ページ	<p>鈴木克明・美馬のゆり（編著）（2018）『学習設計マニュアル：「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房.</p> <p>https://elib.maruzen.co.jp/elib/html/BookDetail/Id/3000083592?20</p>